

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 井上道雄 先生

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元名古屋大学教授、工学博士井上道雄先生は、平成20年2月22日、ご逝去されました。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は昭和16年3月九州帝国大学をご卒業、直ちに名古屋帝国大学理工学部講師に任ぜられ、昭和17年から同20年まで海軍短期現役技術科仕官として海軍航空技術廠に勤務、同年9月には同大学に復帰されました。その後、昭和21年11月助教授に昇任、昭和35年2月には工学博士の学位を授与され、昭和35年4月には教授に任ぜられ、鉄冶金学講座を担任されました。昭和55年4月定年により退官、名古屋大学名誉教授の称号を授与されました。

この間、先生は製鉄から製鋼まで広い分野にわたり冶金学的基礎研究を精力的に行い、数多くの研究成果を挙げられるとともに、多くの人材を育成され、また大学運営のほか学会はもとより産業界の発展にも貢献されました。主な研究テーマは、(1) マンガンによる溶鉄の脱硫、(2) 流動層における硫酸焼鉱の選択塩化焙焼による脱銅、脱亜鉛法の確立、(3) 還元ペレットの再酸化防止のための不活性化、(4) 酸化鉄の還元挙動に及ぼす異種酸化物の共存の影響、(5) 溶鉄の窒素吸収に及ぼす諸成分の影響、(6) 溶融スラグの窒素および硫黄吸収、(7) エレクトロスラグ溶解法における精錬反応の解明、などが挙げられます。

先生は、これらの卓越した研究により、日本鉄鋼協会俵論文賞、同西山賞、同製鉄功労賞、同協会事業功労賞、さらに日本金属学会功績賞および同谷川・ハリス賞を授与されました。そして平成2年には勲三等旭日中綬章を授与されておられます。

先生は、日本鉄鋼協会副会長、同理事、また鉄鋼基礎共同研究会溶鋼溶滓部会および特殊精錬部会の主査、さらには日独セミナーや真空冶金国際会議などの国際交流においても日本代表および実行委員長として本会国際交流事業の推進に寄与されました。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大な業績に対して感謝し、会員一同衷心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成20年3月

日本鉄鋼協会 会長 浅井 滋生